



米倉理左さん

英会話教室Seahorse English Club主宰
J-SHINE小学校英語上級指導者
東京都日野市内の小学校で英語特別非常勤講師6年目

今回は、「英語のみで児童と接する」と、そして「児童の英語がたくさん聞こえる授業」を目指し、東京都日野市の複数の小学校でALT*1として英語指導をされている米倉さんの実践報告です

J-SHINE 通信

2014年10月号

■ J-SHINE資格、上級指導者資格を取得のきっかけ

中学で英語の授業がはじまり、洋楽に夢中になったことが、私の英語人生のはじまりでした。英語は自分を世界へ連れ出してくれる、魅力的な言語となりました。それまで「日本地図」の上にいる私は、「世界地図」の上にいる自分を意識するようになり、高校卒業後はアメリカの大学へ進学しました。アメリカでの生活がはじまり気付いた事は、シンプルな単語の組み合わせで、ほとんどの日常会話が成り立つことでした。言語は使って覚えるコミュニケーションの道具なのだ、日々実感したものです。この時の経験が、私の英語指導に向ける思いのベースとなっています。

卒業後、現地の小学校で日本人児童のTutor*2をしたり、ツアーガイドとして数年間働きました。帰国後は、4回の出産を挟み、留学カウンセラーや、劇団の通訳の仕事などにつきましたが、40歳を過ぎた頃、ある決心をしました。7年間の米国滞在で身につけた英会話力と、子ども好きなアクティブな性格を活かして、自宅で英会話教室を開くことにしたのです。まずは、ワークショップの豊富なmpi*3のセミナーで、体験的に児童英語教授法を学び自信を付け、J-SHINEの資格を取得しました。

自宅で英会話教室をスタートした後、さっそく二つの小学校で英語を担当することが決まりました。一つ目の小学校は、J-SHINEからのEメールで募集を知り、面接を経て採用が決まりました。二つ目の小学校は、思いがけない偶然の出会いがきっかけとなりました。参加した市内の英語研究授業の後、となりの席の方と熱い意見交換をしたのですが、その方が、近くの小学校の校長先生だったのです。後日連絡をいただき、ボランティアとして英語の授業に入ることになりました。続いて娘の通う小学校でも、高学年英語を担当することが決まりました。学校公開の時、廊下で校長先生にご挨拶し、積極的に英語指導を希望したことがきっかけとなりました。このように、J-SHINE取得後は、とんとん拍子に小学校で教えることができました。2012年、J-SHINE資格の更新を機に、小学校での指導時間が500時間を超えていたこともあり、上級指導者資格を取得しました。

■ 現在の活動状況

現在日野市の三つの小学校で、ALTとして高学年の英語に関わっています。毎年度のはじめにHRTと打ち合わせをし、カリキュラムや、どちらがT1になるかを決めています。ALTがT1となることが多く、私から授業の流れを事前に学校にFAXし、授業前の休み時間に打ち合わせをする形をとっています。

大切にしていることは、「オールイングリッシュ指導法*4を貫き、英語のみで児童と接する」「児童の英語がたくさん聞こえる時間にする」の二つです。ALTは英語しか使わない、と児童が認識することで、彼らはジェスチャーを交え、覚えた英語で一生懸命コミュニケーションに挑めます。廊下や街中でばったり会すると、児童のほうから「Risa先生! How're you doing?」と話しかけてきます! オールイングリッシュの授業を成功させるためには、HRTと呼吸を合わせることが大切だと感じます。タイミングよく日本語で「今の英語を、日本語でみんなに説明してくれる人いるかな?」などと

児童に挙手を求めてもらうことで、授業がスムーズに進むことも多いです。児童の話す英語が溢れる時間づくりのためには、授業の導入に「今月の歌」を楽しむようにしています。元気いっぱい5年生には、踊りながら歌うチャンツを取り入れたり、6年生の「将来の夢」の単元では、ジョン・レノンの「イマジン」を歌ったこともあります。児童が英語のリズムによって、楽しく授業に入っていくことが出来ていると感じます。新しい単元に入る時には、キーワードゲーム*5やインタビュービンゴ*6などの定番のアクティビティを行うようにしています。児童が安心して活動でき、どんどん自信をつけて発話していく様子にたくましさを感じます。

チームティーチングでは、HRTが活躍する場を多く作るよう、心がけています。ゲームやスキットなどでは、ALTが見本を見せた後、HRTがリーダーとなり授業を盛り上げます。また、HRTが中心となり、他の教科の学習内容を英語の授業として取り入れることもあります。昨年は、社会科で学習中だった世界の国々の名産物を活かし、買物ゲームを楽しみました。

また毎年、季節のイベントを楽しむ時間も大切にしています。ハロウィンの季節には、大きなかぼちゃを彫り抜いて作った、ジャックオーランタンを教室に持って行き、あかりを灯して、10月に覚えたハロウィンの歌をみんなで合唱します。12月には世界の国々のクリスマスを紹介します。こうした時間を通して、児童がワクワクしながら、世界の文化に興味を拓いていくのがわかります。

■ 今後の展望、課題、目標

昨年度の終わりに、嬉しいことがありました。5年生の男子から「英語はにがてだったけれど、Risa先生が英語を間違えてOK、と言ってくれたので、英語が好きになりました」と手紙をもらったのです。このことは、英語を学び始めた小学生にとって何が大切なのかを、改めて認識させてくれる出来事となりました。「英語力をアジアのトップ級へ」の見出しで、文科省の提言が最近の新聞に載っていました。この改革の鍵を握るのは、シャイになりがちな小学生が自分の殻を破って、安心して英語でコミュニケーションできる環境づくりにあるのではないのでしょうか。私の新たな目標は、数年のうちにJ-SHINEトレーナーになり、J-SHINEの仲間と共に体系的に活動していくことです。日本の子ども達が、コミュニケーションの道具として、英語を堂々と話し、世界に踏み出していける未来の姿を目指していきたいと思ひます。

- *1 ALT: Assistant Language Teacher の略
- *2 Tutor: 家庭教師、個人指導教員
- *3 mpi: 株式会社 mpi 松香フォニックス
- *4 オールイングリッシュ指導法: 活動を英語で進めていくこと。100%でなくても、それを目指していくこと。
- *5 キーワードゲーム: 児童二人の間に消しゴムを一つ置き、キーワードが聞こえてきたら素早く消しゴムを取るゲーム。
- *6 インタビュービンゴ: ビンゴシートを使いながら、児童がインタビューをし合うゲーム。